

ベルト vs ブレイシーズ（サスペンダー）

多くの人は、ズボンを穿くときにベルトを使用しているはずだ。だが、ベルトだとスリーピースを着た際、ウエストコートの下からベルトのバックルが覗くおそれがある。当然だが、ベルトがなければ何も見えなくなる。このとき、ブレイシーズ（アメリカ英語だとサスペンダー）を使用するという手がある。

ブレイシーズの利点は、ベルトよりもクラシックな装いになる点にある。ズボンのウエストが若干大きいとき、ベルトによっては腰回りの生地がヨレてしまうことがある。だが、ブレイシーズでズボンを吊るせば、その心配もなくなる。タック（プリーツ）はキレイに見えるし、ベルトを通す部分を取ってしまえば腰回りもスッキリする。こうした美観の面からもクラシックだと感じさせるのだ。ブレイシーズの利点はこれだけにとどまらない。まず、遊び方が増える。

基本的にも見せないが（ウエストコートを着て、さらにジャケットも着たままとい

うことを前提としている）、ブレイシーズの色や柄は楽しみの1つになる。タイと合わせるのはあからさますぎて野暮に見えるかもしれないが、シャツの色に合わせれば、控えめな楽しみになる。

あるいは、チーフの色と合わせてもいいし、遊び感覚で靴下と合わせてもいい。いわば下着のような遊び方ができるのだ。

そして、サラリーマンに嬉しいのは耐久性である。

ベルトはたいいてい牛革で日々汗と圧力という負担がかかっている。経験上、ベルトは手入れをこまめにしても3年程度でどこかにひび割れを起こして耐用年数を過ぎてしまう。靴を黒革だけで統一し、日々酷使していれば尚更である。その点、ブレイシーズが傷むことはあまりない。タブ式の場合、ズボンとの接合部が革になるが、極端な話、見せることを意図していないため、ひび割れても気がつかないのだ（とはいえもの、手入れはしたほうがいい）。

しかし、いいことづくめならブレイシーズがもっと普及しているはずだが、現実はそのようになってはいない。それは、ブレイシーズに欠点があるからだ。これはあまり言及されることがないが、不便であることも事前に知っておくべきである。

実用面から見ると、2つの欠点がある。1つはズボンとブレイシーズを取りつけるのに

手間がかかる。ベルトであれば、ベルトをズボンに通すだけで作業は完了する。男性なら小学生くらいから手慣れた習慣である。それに対して、ブレイシーズは前面左右それぞれ2つずつ、背面（腰）は2つのボタンで固定しなければならぬ。これに慣れるまでにけっこう時間がかかるだろう。

もう1つは、トイレの際に手間取ることである。トイレのドアにフックがついているが、あれは何もオーバーコートをかけるためだけにあるわけではないのだと、ブレイシーズをして初めて気がついた。つまり、ブレイシーズをつけたままでは、何もできないのだ。オーバーコートに加え、ジャケット、ウエストコートまで脱がなければならぬ。そうならば、どうしてもこの3つを引っかけられる場所が必要となり、フックのあるトイレを選ぶことになる。考えればわかることだが、購入時にはなかなか思いつかないことかもしれない。当然ながらあれこれ脱ぐ時間がかかることになり、混雑しているトイレだと迷惑をかけかねないのだ。

とはいえ、事前に「清潔で設備の整ったトイレはどこか」と考えることになり、そうした情報はデートのときにも役立つわけで、たいいていの駅のトイレの場所を覚えることになる。これは、女性とایشよにいれば役に立つ知識の1つになる。ホテルのトイレが広いのは、これが理由なのかもしれない。

こうした不便さからベルトのほうが普及しているのだろう。

さて、どっちを選ぶかであるが、ふだんからスーツが多いならブレイシーズに統一してもいいだろう。ジャケットが多いなら、ベルトでももちろん問題はないと個人的に考えている。